

# 令和6年度 駒岡小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26010

| 「学ぶ力」   |  |
|---|--|
| これまでの 成果  | 課題   |
| ◇自分の目標をもって学習に取り組んだり、疑問や課題を解決するために自分で方法を考えたりする児童が多い。(札幌市共通指標アンケート結果より)<br>◇自分と違う意見について考えることが楽しいと感じている児童が多い。(全国学力学習状況調査より)  | ◇自分が思っていることや感じていることを人に伝えようとしたり、自分の考えがうまく伝わるように話の内容や順序を考えたりする児童の割合が依然として低い状況にある。また、自分で計画を立てて学習を進めることを苦手としている児童の割合が多い。(札幌市共通指標アンケートより) |
| <b>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</b>  |  |
| ◇札幌市の共通指標の「自分にはよいところがある」「人のよいところを見付けようとしている」等の相互承認に関する項目において、肯定的な回答が多かった。学校全体で取り組んでいる「人とのつながり」を重視した様々な活動が、自他を肯定的に捉えようとする意識の高まりに寄与していると考えられる。その反面、児童アンケート（本校様式）では「自分はまわりから認められ、大切にされていると思う」という設問に対して3割の児童が否定的な回答をしている。互いのよさに目を向けるだけでなく、積極的に伝え合い、認め合いながら自分に自信をもてるような活動を充実させることが重要となる。 |  |

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

|    | AARサイクルの視点で捉え直した<br>課題探究的な学習の推進  | さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく<br>自主的な活動の充実  |
|----|--|---|
| 取組 | ◇研修テーマ「?の風船の拡大」の実現<br>→自分事として捉え、学びの見通しがもてる授業構成(イントロダクション)<br>・学びを進めようとする意欲や期待が高まる事象や教材との出会い<br>→子どもが自己決定し、十分に探究できる時間の保障(個別探究)<br>・単元のデザインの工夫<br>→他者を求め、対話によって学びを深める教師の関わり(協働探究)<br>・他者との関わりにより見方・考え方が広がる学習形態<br>→自分自身の学びを客観的に評価する工夫(リフレクション)<br>・振り返りの工夫 ・教師や友達からの価値付け | ◇相互承認の感度を高めるための「ありがとうの風船」を意識した取組の充実<br>→児童が主役となり、よりよい学校づくりを目指す児童会活動や各行事の推進<br>◇自分たちの生活を振り返り、成果や課題を捉えるための振り返りの場の設定<br>→全校朝会等でのリフレクション<br>→児童アンケートの実施 |

〈本プログラムの実行に向けて〉

